

スマート農業 障害者も

手となる「農福連携」の推進につなげる。28日は魚津市内の障害者施設で試運転を行い、性能や改善点などを検証した。

【webunに動画と写真3枚】

県立大 運搬機器開発

操作楽で達成感

スマート農業を障害者へも普及させようと、昨春から研究を進めてきた。運搬機器はアルミ製フレームと四つのタイヤで作製し、モーターと連動するひもを引

いたり戻したりするだけで前進や左右旋回の操作が可能。凹凸のある田畑でも10㍍ほどの弱い力で最大300キの荷物を運べ、障害者が自らの手で機器を操る達

成感も得られやすい。緊急停止装置を付けて安全面にも配慮した。

この日は、魚津市小川寺の就労継続支援B型事業所「ぶどうの森」で試運転を実施。施設利用者が収穫後のサツマイモを入れた約20キのコンテナを次々に荷台に載せ、運搬機器の操作性を確かめた。

普段は2人1組でコンテナを運んでいるといい、体験した男性利用者は「作業が楽になった」と話した。ぶどうの森の澤田雄平職業指導員は「広い畑では運搬作業が重労働になるので、仕事の効率が上がると思う」と期待を寄せた。

この開発は農林水産省の事業の一環で、石川県立大とも共同で研究している。

今後は実用化や特許申請を予定しており、富山県立大看護学科の清水暢子講師は「障害者が農業分野で生き生きと働けるよう多くの施設に導入される機器を完成させたい」と語った。

左手でひもを操作し、サツマイモのコンテナを載せた運搬機器を移動させる施設利用者（左）



全国の「朝日」町村長交流 ヒスイ海岸を視察



ヒスイ海岸を視察する関係者

「朝日」が名称に付く4町村による「全国朝日会交流会」は27、28の両日、朝日町内で行われ、町村長が自治体の取り組みや課題を意見交換し、ヒスイ海岸などの見どころを巡った。

4町村は富山県朝日町、三重県朝日町、山形県朝日町、大西宏治富山日、同市のクで開き、20の第3次総合を了承した。

第3次総
最終案太
市給

町、長野県朝日、ち回りて交流するが、直近のロナの影響で各地から朝来町。27日、れた意見交換ナンバーカーどについての話を話し合っ

蜃気楼ロード未来探

日本風景街道大学・蜃気楼の見える街魚津キャンパスは28日、魚津市の新川文化ホールで始まり、市内の海岸を通る蜃気楼ロードを軸に、どのように地域活性化や観光振興につなげるかをテーマに意見を交わした。

海山を望む蜃気楼ロードは2020年、国土交通省の「日本風景街道」に全国144番目として登録され、議論の関わり

議論の関わり

た。今回のキャンパスは70周年を記念して魚津市だった。サイクリスト・自転車口良平さん（長野）が特約8年半かけて世界151つた自転車旅の体験談をイクリングガイドの必要諏訪湖などでのサイクルを通じたまちづくりの展し、「民間が前へ出る熱ペダルを回す行政の後押